

報 告 同 窓 会 東 京 高 校 館

第21号 平成17年10月 題字は近藤名誉会長

目 次

総会招集通知	2
総会へのお誘い	会 長 鈴木敏男	3
これからの日本を考える	本校同窓会会長 岩瀬弥市	4
生涯学習の大切さ	本校校長 伊藤 收	6
特 集		
1. 館女東京同窓会の立上げに寄せて	川島佳子	8
2. 見城美枝子さんインタビュー(要録)		
-群馬一人と文化	群馬県人会誌より転載	10
会員寄稿		
1. 扇の的落し	田口正明	16
2. 世界遺産の検証(その3)	岩崎三樹	18
3. 二八そばと庶民生活	江原二三男	20
4. 邦楽尺八と私	渋井恒夫	22
5. 子規と私とベースボール	内田信也	23
6. 館林東毛地区の地域興しに ニューイヤ-駅伝を誘致したい	横山英和	26
7. 俳句 太郎冠者	宮崎 浩	27
記 録		
東京同窓会OBゴルフ会報告	ゴルフ会事務局	29
1. 16.11.10 東京OBゴルフ会20回大会	於 東京ゴルフ倶楽部	30
2. 16.12.14 前橋・高崎・館林交流準備会ゴルフ	於 千葉CC 川間コース	31
3. 17. 5.11 本校同窓会第5回大会(東京OB会ゴルフ21回)	於 板倉ゴルフコース	32
報 告		
1. 17. 4. 5 理事会(観桜会)議事メモ		37
2. 17年度事業報告(案)		38
会計決算・同監査報告その他編集会議以後の事項及び事業計画(案) 予算(案)等については総会当日別紙とします。		
広 告		

会員総会のご案内

招集通知

第24回館林高校東京同窓会総会・並びに講演懇親会

場 所 上野精養軒 上野公園4-580 Ⅷ3821-2181 (代)

期 日 平成17年10月15日(土) 午後5時 受付開始

講演 5時30分 総会 6時20分 懇親会 6時40分

会 費 10,000円(年会費 2,000円 懇親会費 8,000円)

講演 司会進行(紹介者) 大隈清道

1. 講演者 岩崎充利様 (29年卒)

演 題 日本の食糧事情雑考

2. 総 会

(1) 開 会

(2) 会長挨拶

(3) 議長選出

(4) 審議事項

第1号議案 平成17年度事業報告

第2号議案 平成17年度決算報告

第3号議案 平成17年度監査報告

第4号議案 役員改選の件

第5号議案 平成18年度事業計画案

第6号議案 平成18年度予算案

第7号議案 組織活性化策その他の件

(5) 閉 会

3. 懇親会

(1) 開会の挨拶

(2) 本校同窓会々長挨拶

(3) 校長挨拶

(4) 有志挨拶

(5) 乾 杯 (開宴)

(6) 校歌斉唱

(7) 閉会の挨拶

総会へのお誘い

館高東京同窓会会長

鈴木 敏男



第24回総会及び懇親会が別記の通り開催される運びとなりました。館林地方特有の粘り強さと館高固有の協調の精神を基本として四半世紀近く交流懇親を重ねてまいりました。

来年度は愈々創立25周年に当たりますので、今年度は特にこの周年行事に備えて種々の計画を立て、会員皆様の納得の行く前向きの記念の会になればと念じて居る次第であります。

会の組織体制も整いつつありますが、卒業年度の若い方々の入会が増す事により会の活性化、会員数の更なる増加も期待されますので、是非若い卒業生の方々の参加入会を要請したいと思います。

県内他高校卒業の東京同窓会との交流も頻繁に行われるようになり当会でも群馬東部を代表して積極的に合流、参加するようしております。

ゴルフその他部会のおつき合いも近頃増えて参りました。

会員の皆様も種々の機会を通じ参加交流をして頂き、会の存在を意義あるものと認識頂けるよう努めて頂ければと存じます。総会にも是非ご出席頂きご発言、ご意見頂ければと存じます。

これからの日本を考える

館林高校同窓会長 岩瀬 弥市

今年は終戦になってから60年と言う節目の年であり、人間の年令では還暦を迎えたことになる。この時にあたり日本がこれからどのような歩みをすべきかどうか考えることが今の日本にとって大事な時だと思います。

私も昭和ひとけた生まれであり、これからは若い世代に昭和ひとけた生まれの責任として、戦争の悲劇や人類に不幸をもたらしてはいけないと次の世代に語り継いでいきたいと考えてユネスコ活動や明るい社会づくり運動等を通して、私なりに平和を求めている活動をいたしております。先日今今の日本の現状を静かに眺めて私なりの思っていることを大泉町の同窓生の皆様に申し上げましたが、東京同窓会の皆様にも申し上げたいと思っております。

その内容は、今から10年位前に大泉町において外国人の講師のお話が忘れられず、今も私はしっかりと記憶しておくことで、日本には国際社会で誇れるものが7つあると言うことです。

第一は、外国に比べて日本は生活が安全である。

第二は、日本の交通機関は時間通りに普通は動いている。

第三は、日本は家族制度がくずれているとは言っても、まだしっかりしている（離婚率が外国は高いが日本はまだ低い）。

第四は、話すこと、行動することが日本は自由である。

第五は、日本は敗戦後50年余経過しているが戦争がなく平和である。

第六は、敗戦後のあの当時のことを考えると奇跡的に発展している。

第七に、日本の医療はめぐまれており健康保険制度はしっかりしている。

以上の七項目が日本が国際社会に誇れると言われました。私もその時にはそう思いました。終戦後の日本人がよく頑張り努力いたしたからだと思います。

しかし、最近の日本の姿はどうでしょうか。国際社会に誇れた七項目はどれもくずれているのが今の日本の現況だと思います。

私が心配しているのは、犯罪が増加し、日本社会が益々不安定になってきていると言うことです。会社内においても、地域社会にあっても、人間関係が失われつつあり、安

心して子どもを生む社会環境になっておらないので、少子化現象が進み、出生率1.29というのが日本の現況です。心配したフランスでは出生率が1.9まで回復しました。

このままでは日本の将来は活力がなくなり、自分の国を守ると言うことも心配になる時代がくると思います。

今こそ日本の将来について真剣に考えることが日本国民にとって国民的課題だと私は思います。

以前の日本社会には素晴らしい美学がありました。家族にはあたたかい家族愛がありました。又地域社会には助け合う連帯感があり安心して生活できる社会がありました。日本人は勤勉であり、自分達の住む社会や国を大事にする心がありました。又それぞれの地域には伝統があり文化がありました。しかし、現実の日本を見つめるときに果たしてどうだろうかと考えた時に、今一度国民が立ち止まって反省し考えて見る時だと私は思います。

もっと命を大切に社会、自殺者が少ない社会、国民が自分達の住む社会を大事にすることを考えるべきだと思います。

現在国においても教育基本法を見直す動きがあります。どんな動きになっても忘れてならないことは、物をつくるのも人、環境をつくるのも人、子孫をつくり育てるのも人、社会をつくり国を動かすのも人です。私は今しみじみ明治23年に発布された教育勅語を小学校時代に暗記したことを思い出します。最近友人より教育勅語を現代語に訳したものをいただき読んでいるうちに、今一度日本人として教育の原点に立ちかえて考えるのによい資料になるのではないかと思いました。哲学者の梅原猛先生が「母ごころ、佛ごころ」と言う本の中で、今の日本は危ない、滅びるのではないかと言われている。もしそうだとしたらその原因の一つとして私は日本人が道徳心を失っていることをあげたいと思います。

日本はこれからが大変だと思います。これからの日本の将来を皆さんと一緒に考えたいと思います。そのために参考になればと思い教育勅語の現代語訳を資料として記載いたしましたのでご研究下さい。

教育勅語（現代語訳）

われわれの祖先は、高遠な理想の下に日本という国を造り、道徳を確立し、その実践に非常に努めた。国民は誠実で父母を敬愛し、一心同体となって、この美風を代々伝えて来た。これこそ、わが国を立派な国柄に造り上げたものであり、教育の根本精神もこ

こにあるのである。国民は皆、父母を敬愛し、兄弟姉妹は親しみ愛し合い、夫婦は仲良くし、友達同志は信義をもって交わり、各自は謙虚で贅沢をつつしみ、近隣ばかりでなく広く人類を愛し、人間としての道はもちろん、科学を勉強し、職業を身につけ、かようにして知識を広めると同時に能力を発揮し、個人としても立派な人間となり、更に進んで、世の中の利益になることをし、社会人としての務めを果たし、常に国の憲法や法律を重んじて守り、非常の事態が発生したような場合には、勇気を振り、公共のために一生懸命につとめ、わが日本民族の永遠な生命を護るよう努力してもらいたい。そうすることは、誠実な国民といえるばかりでなく、わが日本の立派な伝統を発揚することにもなるわけである。

以上に述べたところは、われわれの祖先が子孫に伝えた教訓で、皆で一緒に守って行かなければならぬものである。この教訓は、今も昔も変わりなく、国の内外を問わず、正しい教訓であるから、自分も国民と共に、常に心掛けて、等しく立派な人格者になりたいと希望する次第である。



生涯学習の大切さ

群馬県立館林高等学校校長 伊藤 収

平成4年、知事部局の文化振興室に自然史博物館準備係が開設され6名が召集された。博物館の実施設計を進めるに当たり、専門内容に関わると言う事で学校現場から理科(地学と生物)の教員各1名が異動した。博物館づくりのおおまかな行程は、資料調査、資料収集、基本設計、実施設計、建設設計、展示設計、建築工事、展示工事、開館準備、外構工事などである。私は平成10年までその仕事に携わった。

平成11、12年は生涯学習センターに移り生涯学習に携わった。生涯学習センターでは「まなびの祭典」のイベントを組み、県民を集める仕事もした。イベント事業では人を集める大変さを経験し、地元関係者の協力無しに事業は出来ない事を学んだ。

行政9年を経て学校現場に戻ったが、学校そのものが大きく様変わりした感を持った。この9年で教育の捕らえ方も変わった。生涯学習の事業に携わった事もあり学校教育を外からの視点で捕らえる事が出来るようになり、狭義の学校教育から広義の教育行政という視点で捕らえる事が出来るようになった。教育事情も変容し、この間、生涯学習の大切さが叫ばれ、学校教育と並び重視され今日に至っている。

生涯学習という言葉は今ではどこでも使われ、はや違和感はない。人間生きている以上学習し続けなくてはならないという理念に基づいている。平均寿命が伸び、全年令教育という意味で生涯学習が重視されたのもうなづける。会社人間が定年退職しその後15から20年生きる時代となった。健康に生きるためには生きがいを見出す必要がある。その事から「生涯学習」は必要不可欠となっている。

血気には老少ありて、志気には老少なし。老人の学を講ずるには、当にますます志気を励まして、少壮の人に譲るべからざるべし。少壮の人は春秋富む。たとひ今日学ばずとも、なお来日の償うべきあるべし。老人にはすなわち真に來日なし。もっとも当に今日学ばずして來日ありということなかるべし。(佐藤一斎)

生涯学習を地道に推し進めましょう。

ところで、学生にこの言葉を安易に伝える事は出来ない。「今日学ばなくとも取り返せる年月を持ち合わせている」と言う言葉は耳に心地よい。取り返せる時間があるから『ゆとり教育で良い』というわけではない。基礎基本をきちんと学習することこそ大事で、その事無しに『ゆとり』なんて生まれるはずが無い。高校生でも今何が大切なのかを考えればわかる事である。脳を鍛える時期に基礎基本が不十分のまま、脳の成長期を終えてしまったら大変である。この時期徹底的に鍛えてこそ意味がある。成長が止まってから鍛えても「労多くして功無し」である。限られた脳細胞を駆使して生きるより、多く成長した脳細胞を使うほうが良い。学ぶべき時に最低限は覚えこむ、又鍛えこむべきである。それを獲得してこそ各自の将来が保証され、また自分の道を切り拓く可能性が大となる。

今、学校では生徒に対し責任を持つ教育を提供している。厳しい時代であればあるほど基礎基本は大事である。教育の本質から外れないよう歩んで行きたいと考えている。

(平成17年度より本校々長一編集(委)註)

館女東京同窓会立ち上げに寄せて

館林女子高校出身

ケイアンドアソシエイツ
インターナショナル代表

川島 佳子

(昭和52年度卒)

館林高校東京同窓会の皆さん、こんにちは。館林女子高校OGの川島でございます。この度、館女東京同窓会立ち上げについての原稿を要請されましたので突然ですが誌面を騒がすことになりましたので、しばしのお付き合いをお願いいたします。

最初に、東京同窓会立ち上げの目的の一つに群馬県人会との関わりがございますので県人会のことについて少々触れさせて戴きます。

県人会の原形は、おそらく、江戸時代、各藩の江戸屋敷が形成された頃に、その目的と精神性を遡ることができると思われます。その後、明治の富国強兵、海外列強への追いつき追い越せの時代の中で、労働力の集中とそれに伴う人口動態、そして新しくは、戦後の復興の中で、多くの若者が仕事を求め、地方から集団就職電車で都会や都市に出てきた時に、県人会は、互助と愛郷の目的で都市部に自然発生的に形成されてきました。こうした集団性は、海外の中華街や日本人街、日本人会などとも同じ性質のもので、いわば、人間の本質的なアイデンティティに根ざしたものです。

しかし、若い世代には、このような会、組織は、何だか古臭いように思ってしまうのも無理ありません。かつてのように、電話もなく電車で何時間もゆられてやっと帰れるような遠きふるさと、現代のように時間も空間も自在に行き来できるような交通・通信手段が発達してしまうと、ふるさとは、もはや遠くにありて思うものではなくなっています。特に館林は、小1時間もあれば、東京からいつでも帰ることはできますし、今では通勤圏にすらなっています。また、情報手段の格段の発展により、東京であろうと群馬であろうと瞬時に同一情報がネット化された現代において、東京からの新しい情報の発信や先取性という点においてもそれほど極端な差がなくなってきました。

このような時代と社会インフラの変遷の中で、おのずと県人会のあり方や活動内容も変わっていかねばなりません。

群馬県人会は、そうした中で、各地区の高校を基盤とし、各校の東京同窓会を中心と

した連合会のような形で当初発足し、それらの貢献によって組織を強固なものとして発展してきました。ただし、館林女子高校の東京同窓会は、残念ながら、今まで結成されておりました。館女の校風は、その土地柄、比較的温厚で意外に引っ込み思案とでも言いましょうか、自分から積極的に手を上げるといのがどうしても苦手であったり、内弁慶とでも言いましょうか、親しいグループでの交流は結構盛んでも、全体的な組織化というようなものが、どうも苦手であるというような傾向が強いように思われます。同時に申しますと、東毛地区は全体的に同じような環境にあるのでしょうか、太田女子高校や桐生女子高校も東京同窓会は無く、群馬県人会への関わりはありません。県人会発足当初から関わっている前橋女子高校、高崎女子高校、渋川女子高校等西毛地区の各東京同窓会と若干ギャップがあるようです。

この度、群馬県人会の副会長及び館林高校東京同窓会会長の鈴木氏並びに同理事及び副会長の山岸氏からの強い要請や同事務局挙げてのバックアップ体制の中で、偉大な先輩、見城美枝子さんのご協力を頂いて、ようやく、館林女子高校の東京同窓会を立ち上げる運びになりました。

館女の校風の中で、どのような同窓会活動が望ましいのかは、やはりある程度のマーケティング的な発想を基本に、規制概念にとらわれることなく、時代にあった同窓会活動を展開できればと思います。女性の場合は、年齢によって、子育てや介護など忙しく余裕のない時期もあり、また、立場によって、外出しにくい時期や時間帯も差があります。働く女性も多く、その関心の幅も非常に多岐にわたります。そうした各世代、立場のニーズや状況を把握しながら、義務や義理の会ではなく、それぞれが楽しく意義ある活動として参加、発展できるような会になればと思います。単にその場限りの楽しみの会というもたまには良いのですが、地元とをつなぎ双方向でのプロモーションやアンテナとして、互いに貢献できるような活動やプロジェクトが継続的にできれば面白いと思います。先輩方には、また、館高の先輩方にも、よきメンターとなっただき、後輩の特に若い世代が興味を持って参加できるような実質的な会になるよう大いにご指導ご協力をお願いしたいと思います。

= インタビュー - 要録 =

見城美枝子さんに聴く

(昭和38年館女卒)

インタビュアー 川島佳子さん

(昭和52年館女卒)

一群馬一人と文化

失敗は消せないんですよー人生の重石に

Q 私は見城先生の母校、館林女子高校の後輩で川島と申しますが、今日は群馬県人会機関紙「うぶすな」のインタビューにご協力頂いて有難うございます。在学中に先生のご講演を聴く機会があり、お話の中でラジオ番組での失敗談をお聞きしまして、「こんな立派な方でも失敗するんだ」と、勇気を頂いた記憶を鮮明に覚えています。見城さんにとって、その失敗はその後のキャリアの中でどのような意味があったのでしょうか。

A そうですね。失敗は消せないんですよ。結構厳しいもので、次にミスをしたら、やっぱりといわれますので重石になっています。上手く事が運んでいる時でも失敗があるのでは、と、かならず初心忘るべからずということで戻ります。キャリアを積んでも準備は十分に、それ以来ずっと続けています。

アフリカ取材ー取材と番組制作の意気込みを学ぶ

Q 私達の世代は「おはよう700」という見城さんのリポーター番組で世界の人々との交流に導かれたと思いますが、その中で特に印象に残る国や出来事は何だったですか。

A アフリカですね。丁度、いくつかの地域が独立して行く時期でして、しかし独立しても自立出来ないという事実をこの目で見ましたが、それが何なのか、ということ随分疑問に思って考えて来ましたが、結局それは食料(糧)ということではないかと思えます。皆さんは経済自立と単純におっしゃいますが、食料が原点で、食べれば力

が出て何でも出来ます。逆に、食料が無いということは働く意欲が無くなりますし、争いが起こります。そして内戦、部族間の対立へと繋がります。結局、一つの国としてどうすべきか、その統率が取れなくなってしまうのでしょうか。そういうものを見てきました。統一して統率してくれるリーダーが必要ですが、そのリーダーが一つの国に纏めて行く過程では部族間の血で血を洗う様な内戦になるので、国としてどう統率していくか、食料の自立、そして経済の発展が揃っていかないと難しいです。

Q その経験がその後のお仕事をする上での肉となり血となったのでしょうか。

A 仕事をする上での基本は色々な所で学んで来ましたが、そこでは取材や番組をつくる意気込みを学んだと思います。小人数の4人で行ったので、例えば、カメラマンは重いカメラを持っていったのですが、どんなに重要で緊急な時でも撮影前に助手にレンズの埃を払わせる。砂嵐の中でもそれをやり、こちらはそれを聞き逃がしたら大変と思い「急いでください」と急がせると、「フィルムに傷がついたらどうする」と怒鳴る、といった様にプロとプロがぶつかり合う。ディレクターはそういう状況の中で時間とコストの範囲の中で、日本に帰った時あれを撮って置けばよかったというようなことはあり得ないので、プロとして瞬間々々の決断を迫られている。たった4人ですから、自分の持ち場と他の人の分もカバーする。例えば私は、空港では10数個の荷物の見張り番。チームワークの中でプロに徹することを学びました。プロというのは自分の仕事だけでなく他の人の為にどれだけやるかを徹底させられました。だから全員が緊張感を持っていましたね。

館林の少女時代－ワイン樽の中で芳醇な香りを育む

Q 館林にいらしゃった頃はどのように過ごされましたか。

A 女子高時代はスカートの丈も決まっていた、背の高い人も、低い人も地上30センチ位で、女子高の生徒が街を歩くと道路にピーッと水平の美を守らされていました。また、甘味喫茶など学校帰りはダメで、髪の毛にピン一つダメ、髪が長くなったらアゴの線で切るか三つ編みか縛るかしないとダメ。そういう規律の厳しい中で一番良かったのはエネルギーが溜まったことです。溜めて、溜めて、溜め込みましたよ。そういう中でとにかく夢を描いて暮らしました。忘れられない光景は、一つは掃除の情景で、校庭係りは割烹着を着て一斉に並んで掃くんです。もう一つは屋上で5月の躑躅が真っ赤に燃えているつじヶ丘公園や城沼を見ながら、私は「東京に出て大学に入り、アナウンサーになるんだ」、もう一人は「アメリカに留学する」、もう一人は「スチュワーデスになりたい」と、空を見て、「絶対やるんだ」と誓い合い、すごい

エネルギーが溜まっていました。

Q それは抑圧された中でエネルギーが更に溜まるという状況ですか。

A 私はそれを樽の中で寝かされたワインのようだ表現するんです。出たくてブツブツしても樽はしっかりタガが締められていて出られない。それまでエネルギーを溜めて溜めて、言い換えれば勉強して、勉強して何があっても誰にも負けないという感じがありましたね。それでいてハングリーじゃないんですよ。ある時、開けたらいい香りのする、芳醇なワインになっていた、という事です。

ですから進学についても周りの言い成りです。例えば、中学のとき東京に出たかったのですが、親・親戚が集まっての親族会議や先生達がまだ早いと言って戻されました。それでは太田女子高へ電車通学したいと言ったら先生に「館林の子は館林女子高に決まっているだろう」と有無を言わせずに、「はい」と言わざるを得ない時代でした。

しかし、それは私にとって正しかった。お陰で館林という街に感謝しています。おそらく小中学時代「あなたの好きなようにしなさい」と言われて東京に出たり、電車通学をしていたら自分を御しきれずにダメになっていたかも知れません。

Q 同じく同郷の向井千秋さんはお母さんの影響を強く受けたようですが、見城さんの場合はどうでしたか。

A 父親は夢の部分、ステップアップして行く時の紋章みたいなもので、私が恥ずかしくないように育つ目標のようなものです。それに対して母親は実質的な事柄の先生みたいなもので、もう規律の一つ一つを生活の中で教えてくれました。例えば面白い教えの一つに、私は子供の頃、お化けが怖く、四谷怪談、千鳥が淵、怪談映画も多かったし、幽霊が怖かったのですが、母に話すと「幽霊より怖いものがあります。それは人間です。人間の方がよっぽど怖い(笑い)。幽霊は何もしない。あなたは良いことをしているからちっとも怖くない。」と聞いて、スパッと抜けましたね。面白いでしょ。母はこういう話をし、現実を教えてくれました。他にも一杯あります。

また、母は今、84歳ですがピアノを私の子供と一緒に習ってまして今では私より上手く、発表会に出ています。母は、乙女チックな夢をずっと追い求めていて、50の手習いで、最初の夢は「乙女の祈り」と「エリーゼのために」を何時、何処でも暗譜で弾きたいと言ってそれをやり遂げましたね。ここ数年のところでは、ラ・カンパニラを弾くフジコ・ヘミングさんの弾くのを聴いて感動し、それに挑戦しようかしらと始めました。

Q お母さんのチャレンジ精神を見城さんは引き継いでいらっしゃるのではないでしょ

うか。

A そうだと思います。

45歳で大学院入学—50、60代の青写真をつくり胸を張って新たな人生に挑戦

Q 45歳で大学院に入られたきっかけは何ですか。

A 4人の子供を全部育てて、一番下が小学校に入って、もうここまでやって「はーっと」振り返ったら、子供の為に私は出すもの全部出してしまった、中味も、資金も勿論（笑い）、受験の母もやって、エネルギーを使い果たしましたよ。

45歳の時に、最後の子が未だ入学前だったのですが、この子が小学校に入ったら自分の為に生きていいのではないかと思いました。

Q 当時、日本人とか或いは日本文化を研究していたと聞いていますが。

A 45歳の時に「50代をどう生きるか」というシンポジウムに出てください、と頼まれたんです。でも未だ40代で早いと断り続けて来たのですが、いずれ50歳になるのだから、その前に自分自身をしっかり勉強して50代、60代の自分自身の新たな青写真を作らなければならないと決意し、新しく胸を張って生きて行く人生の為に勉強しようと思いました。しかし、女子高時代から大学へ行くまで、また大学へ入ってもほとんどアメリカ文化のシャワーを浴びた世代ですから、また、敗戦後に生まれましたから日本中が皆、ヨーロッパからアメリカに目を向けてきて、何もかもアメリカナイズされて来た中で生きて来たので、日本というものを私は見失っていたのです。と言うより出会ってなかったのです。

海外を回ってみて相手の国が日本文化を知らないことを知らされる。私の世代も学んで少なくとも次の世代に日本の良さとか伝統とかを受け継がせなくてはならないと思ったんです。すでにもうあの戦争で伝統的なものは切られたわけです。

Q 大学院で建築学を選ばれた理由は何ですか。

A 建築は元々好きだったんです。母の話によるとオコタ（炬燵）に入っていて図面を書いていたと言うんです。実はエピソードが2つあるんですよ。私がアナウンサーになって暫くした時、母が言うには、私が子供の頃オタマをもって「おたじゅねちゅます、おなまえは」（笑い）と家族や店員さんに聞いて歩いたそうです。それと母がやっぱり三つ子の魂かしらと言ったのはオコタで、廊下がこうなって、ここに部屋があって、こうなったらいいな—とか言いながら間取り図を書いて居たそうです。

それに何処へ行っても家が好きで、お寺なんか一日中見えています、軒の造りがどう

なっているのか。数寄屋造りも好きですね。海外でも色々な建物の中を見ます。

決定的だったのは日本人論をやりたかった。日本人というのはどうして日本的なのか。海外で日本人が歩いて来ると他のアジア人と違ってすぐ分かった。それが今は分からない。それは所作・立ち居振る舞いが違うから分かるので、その立ち居振る舞い、日本人の規律正しい動きが今は違ってしまったのだと思います。日本人の動きを見ると分かるように、ピッ、ピッ、ピッーと、きりっと、凜として動く部分が東南アジアの人達と違うんです。ずっと履物を履いている海外の人と比較すると、家の中では履物を脱ぎ、姿勢、歩幅、立ったり、座ったり、浄と不浄をきっかり分けたりする、そういう中で生きてきた日本人の凜とした所作・立ち居振る舞いと潔さ、それが書院造りの方へ行けば凜としたたずまいの形になり、数寄屋造りになって、佗び・サビの世界へなって行くのでしょうか。また、町家は町家の旦那衆が持っていた文化の香りが在る訳ですよ。そんなこと一度も勉強しなかったのが日本人の住文化を次の世代へ伝えて行こう思い、じゃ建築・住空間から捉えて行こうと早稲田の建築学科に入って日本建築史を専攻して、日本人の知恵が山ほどあることが分かってきました。

大学では伝統的住文化の研究

Q 青森の大学ではどんな活動をなされておるのでしょうか。

A 建築社会学とメディアリタラシーのメディア文化論を教えています。それから日本中の古い民家を調査して、図面が無いと言われると一人で行って見て来て、書いて送ったりします。

そういう活動の他に、青森では弘前、黒石などに古い家があって、毎年、学生をそこへ連れて行って日本の住文化について勉強します。学生の中には屏風や欄間を知らない子がいます。そこは非常に良く出来ていて、火鉢を置いて締め切っても欄間があって、そこから空気が抜けていくので一酸化中毒にならない。大工、棟梁の技術には素晴らしいものが在ったのですが、それを戦後一気に棄てたんですね。

Q 生活改善運動などと言って捨てたんですね。それで日本人の心意気も無くなったんですね。

A だから日本文化アパートとか言われて何とせせこましい家になってしまったことか。日本の地方に在る、また東京にだって一杯在った古い家を復元してと言っているんです。棄てて来たけどほんとに棄てていいんですかと世に問い掛けて、次の世代に受け継がせて欄間にしても、鴨居にしても明日の住生活に生かせないか、これからの日本

の家というのはどうしたら良いか、考えなければなりません。

頼りない男女共同参画型社会の後継者たち

Q この本（会話の苦手なあなたへコンプレックスを解消する50のレッスン）を書いたきっかけは何ですか。

A これはもう、余りにもテレビをつけても聴きたくないような言葉遣い、耳障りな言葉の多い世の中になりまして、私が年をとったせいかと思いましたが、私の周りの全員がそう言っております。ああいう突然の奇声や大声、それにフニャフニャした女の子の喋り方、それが許しがたいの（笑い）。しかもお腹にちからの入ってない発声で鼻に掛かってますでしょう。若い女の子達は自分達を可愛く見せる為に骨ぬきにしゃべるか、乱暴な男言葉か、ツーパターンです。

Q 何で日本では「可愛いって文化があるのか、そこはやっぱり男の人が悪いんじゃないのかな」（笑い）

A 可愛いことにこしたことはないですよ。トウが立って古いより「娘18番茶も出花」の可愛さは本来貴重です。“けど”なんですね。その若い女の子達が本当の意味で女らしいかと考えてみると、もう、全々嗜みも無くなったし、ぶかぶかとタバコの吸い方もこれ何なの、もう止めてよ、というそういうギャップですよ。

私達の時代は女として可愛さなんかで生きるのではなく、実質的な仕事の出来る人間になるとか、人として立派な人間に育てられて来る訳ですが、そういう部分があって、むしろ可愛さで勝負なんて恥じだとか、私よりもう一寸上だともっとそうです。女の子ということで勝負したら2～3年でだめになる。本物になる、実力で勝負出来るようにやって、しかも男女共同参画型社会まで一生懸命持っていったわけです。社会の制度として定着させようとしている時に、これを受け継ぐ女の子たちが気の抜けた声で、何を見ても可愛いしか言わない、頼りないですね。

同窓会のこと

Q 群馬県人会というのは高校の東京同窓会（支部）が核になって動いているのですが、館林女子高校は東京同窓会が無いんです。

A そうですか。

Q そこで、今日は館林高校東京同窓会の会長から「是非、館林女子高校の東京同窓会を設立し、県人会活動に参加出来るように先生のお力を貸して戴くように」と伝言を頼まれて来ましたので、宜しくお願いします。

A はい承知しました。

本日は長時間本当に有難うございました。益々のご活躍を期待しております。

〈編集後記〉

インタビュアーは川島佳子（館女OG）、文責は山岸正（館高36年卒）。これは群馬県人会「うぶすな」からの転載です。

= 会員寄稿 =

扇の的落とし

旧制館林中学校23年4年修了 田口 正明

NHKの大河ドラマ「義経」が、放映されている。このドラマは、宮尾登美子訳の平家物語に取材している。

むかし、日本海海戦という日本の国運をかけた日露戦争があった。この海戦では「皇国の興廃、この一戦にあり。各員いっそう奮励努力せよ」という東郷連合艦隊司令長官の訓示が思いだされる。また、秋山作戦参謀が起案した「本日、天気晴朗なれども波高し……」という訓示も思いだされる。この名文は、平家物語の「扇の的落とし」から取材したものである。

屋島の厳しい戦いに疲れた源平両軍は、勝敗を明日に延期することとした。このとき、平家の軍船のなかから豪華にかざりつけた船が、なぎさに横づけして止まった。

「あれはどうしたことだ」と不思議に思い見ていると、船のなかから紅の袴で正装した美女が現れた。彼女は、金の日の丸の扇をつけた竿を舳先に立て、海岸に陣をかまえる源氏にラブコールを送った。

「あれは、なにごとだ」「あの扇を射ってみよ、という平家の挑発でしょう。近づくと危険です。前に出ないでください」

が、義経はまどわず扇の的落としの一番バッターに、那須の与一を起用した。与一は、空飛ぶ鳥をも落とす弓の名手である。

「どうだ与一、あの扇の真ん中を射ぬいて、平家にお前の腕前を見せてやれ」

扇の的落としの支度をととのえた与一は、源平両軍が見守るなかを、騎乗姿で渚へあらわれた。

この扇には、平家の戦勝祈願がこめられている。扇は、安芸の厳島神社に奉納されていたものである。源氏は、この扇をどうしても落とさなければならない。落とせば源氏の勝ち。不成功におわれば、平家の勝ちとなる。源氏としては、どうしても負けられない。与一が馬を海中に乗り入れたころ、北風が激しく吹きだした。打ち寄せる波は、高くなった。扇をかかげた船は、高まる波におおきく揺れ動いた。竿の先に立てられた扇は安定せず、ひらひらと揺れ動いた。この様子を、船上の平家は固唾をのんで見守った。海岸に陣をかまえる源氏もまた、馬のくつわをならべて見守った。

与一は、海の平家、陸の源氏の双方から視線をあびた。与一は、静かに目をとじ戦勝を祈願した。わたくしを故郷の那須へ帰したいと思うなら、どうかこの矢をあ扇の的に命中させてください、と祈った。

目をひらくと、風は弱まった。扇は射やすくなった。与一は、矢をつがえた。じゅうぶんに引きつけ、ビューンと放った。矢はうなりをあげ、扇の的を射ぬいた。矢は海上へ落ちた。扇は空へ舞いあがり、春風に乗りゆっくりと海上へ落ちた。金の日の丸の扇は、夕日をあび波のうえを浮き沈みした。

この情景を見た平家は、船端をたたいて感嘆した。源氏もまたえびらをたたいて歓声をあげた。

平家物語は、このときの状況を「北風激しく吹きければ、磯打つ波も高かりけり……」と描いている。この名文を下敷きにして、東郷連合艦隊司令長官は「本日、天気晴朗なれども波高し……」と訓示し、軍艦旗を高だかとかかげた。

明治の武将は、古文や短歌それに漢詩をたしなまれた。乃木將軍や秋山作戦参謀は、その代表といえる。貴族化した平家の公達も、源平合戦の戦場へ笛をもちこみ、また、歌道のたしなみも忘れなかった。明治以降、歌道は短歌となり軍人に引きつがれた。現在は、皇居での新年「歌会始め」に引きつがれている。

世界遺産の検証（その3）

館高東京同窓会副会長 岩崎 三樹

（23年卒）

2003年はイラクの大量破壊兵器廃棄の問題で戦争が勃発し、戦争が終結したら、SARS（重症急性呼吸器症候群）新型肺炎が世界的に猛威を振るい、多くの感染死者を出し、その関係で世界観光旅行者が減少した。私も危険を避けて、世界観光旅行を控えて居ました。

今迄に85箇所と足踏みをしていましたが、2004年に再開して、当初の目標の百箇所を目指して、やっと一つの目標を達成する事が出来ました。

私が世界遺産見学旅行を始めた時は583箇所でしたが、現在は788箇所となり、205箇所も増え、日本でも和歌山熊野古道が追加され（見学済）、まだまだ増えることが予測されます。

そこで、新たに120箇所を目標としてみたいと思います。

⑩ インドネシア

ボロブドゥール寺院遺跡群・1000年の眠りから覚めた、世界最大の仏教建造物遺跡がボロブドゥールの密林の中で発見された。安山岩を積み重ねて出来ている、釣り鐘形で接着剤になるものを一切使っていない（漆喰・セメント）日本の古都京都・奈良の建造物が釘1本使っていないのと同じで、本当に驚きました。その遺跡が火山灰に隠れ眠っていたのにも、ビックリしました。

ブランバナン寺院遺跡群・ヒンドゥー教寺院としては最大規模で、建物は人間界を現す、基壇で人間と神の係わりを現し、天に燃え上がる巨大な焰の姿の、シヴァ神殿には圧倒させられてしまう。

⑪ レバノン

アンジャール遺跡・イスラム遺跡で王宮のアーチはビザンチン帝国時代（714年頃）の建築様式で建てられ、建物は緩衝装置機能を持っていて、地震による倒壊を守ろうと造られた素晴らしい建造物である。

パールベック・ベカー高原の中央で優美なローマ神殿と巨大な聖地に200年の歳月をかけて建造されたとの事、そのジュピター神殿に残る6本の列柱の高さ20mの巨大さには圧倒させられ、ローマ帝国の威容が今も聳えてるのに驚く。

⑩ シリア

パルミラ遺跡・シリア砂漠のシルクロードの拠点に、ペール神殿がコリント様式の列柱廊があるが、周囲の壁は崩れている。中心部の列柱通りに神殿跡があり、中央の岩山には城塞が見える。

ダマスカス旧市街地・ウマイヤドモスクはローマ時代、神殿がビザンチンのキリスト教時代には聖ヨハネ聖堂があったが、それを取壊して権力誇示のためイスラム教徒が壮大なモスクを建てた。

アゼム宮殿・現在は民族博物館と英雄サラディーンの墓、共同浴場、市場、キリスト教会がある。

隊商都市ボスラ遺跡、ローマ劇場は遺跡の中で最も保存状況がよく、7世紀に占領したイスラム教徒が侵略者を防御出来ると考えて、要塞化して破壊されずに残ったとの事、その威容と黒い玄武岩の劇場が寂れた町に残っている。

⑪ ヨルダン

アラム城・イスラム教徒の目を逃れて、酒や入浴等の享楽を満喫するために、造られた石造宮殿で、床にはモザイク、天井には絵画が施され、ウマイヤ朝の宮廷生活や、歴史が飾られていた。素晴らしい建物である。

ペトラ・ペトラ遺跡見学は終日コースで、朝8時30分開門、後5時閉門と時間の制限の中での強行なスケジュールである。

途中迄、シーク（岩の裂け目）の入口までは健脚者は徒歩、女性、高齢者は馬車、ロバ、バイク等を利用している。

シークから左右に70m以上もある断崖岸壁に挟まれた道を30分程行くと、突然視界が開けて目の前にエル・カズネ（宝物庫）と言う巨大な神殿が現れる。

その道づたいに行くと、葬祭殿、墳墓群、ローマ劇場、神殿、列柱が立っている。岩壁には王家の墳墓群が連なり（500基墓）、シルク墳墓の美しさが目を引く。

レストハウス、博物館、急な山道に向かって1時間も行くとエド・デイル（修道院）が岩山を彫って造られ、荘厳で神秘的な修道院が悠然と山頂に聳え立っていた。

降雨量の少ない砂漠の中に水の供給を確保して、山頂に至る迄の10km近くに亘って建造物が有るのには驚きの一語につきる。

ペトラ遺跡は今だに発掘されず、土中、岸壁の中に埋もれていて謎に包まれている。

⑫ 中国-3（前回16・19号の中国編の続き）

蘇州拙政園・水の都「東洋のベニス」と言われる蘇州に明の時代に造られた、蘇州随一の古典式名園は中国歴代の書家の持ち物で、大小の蓮池と東屋と回廊の美しさが目に

つき、古朴な建物が連なっている。

寒山寺・蘇州名園の郊外にある寒山寺は世界遺産に登録されてはいるが、規模としての素晴らしさは一寸欠けるが、余りにも漢詩では有名である。（月落ち鳥啼いて霜天に満つ…寒山寺…夜半の鐘聲客船に到る）

虎丘斜塔・白い虎伝説を秘めた、傾いた塔で中国版「ピサの斜塔」と言われているが、立地場所と薄汚い感じの塔に思えた。

明の十三陵・地下宮殿定陵の一陵だけ発掘して、観光させている、素晴らしい宮殿も盗掘されていたとは驚きである。後の十二陵も発掘して見せて貰いたいと思っていますが、無理な話です。

曲阜・三孔（孔廟、孔府、孔林）中国三大宮殿建築の一つで、歴代の皇帝が孔子を尊敬、特権階級の豪勢な暮らしと、儒教の祖である孔子一族の墓地の三孔は見応えがあります。

二八そばと庶民生活

東京同窓会副会長 江原二三男

（昭和30年卒）

私は農家に生まれたもので、米は大切に常日頃言われたものです。小学校低学年の頃は、第二次世界大戦争中でもありましたので食糧増産を合い言葉のもと、供出米に追われ米麦中心の農家にとりましては米飯を節約し年間を通じ、うどん、そばの食事が多かったと記憶している。

年の瀬から農作業と言えば、休日ともなると早朝より赤城おろしが吹き、砂埃の立つ寒空の下で麦踏みをさせられたものです。

正月もあつという間に終わり早「にっぽち」に入った。この言葉の意は2月、8月のことである。2月は散財をした正月の後なので、8月は夏休みなので商取引が振るわないのだと言う。

しかしながら「にっぽち」という言葉を耳にすると直ぐ思い出させるものがある。落語でおなじみの外題「時そば」の中での「二八そば」だ。「にはちそば」とも「にっぽ

ちそば」とも読む。何故「二八そば」と言うのか、ここにも諸説がある。代表的なもの1つは江戸時代から庶民の食べ物であった「そば」の料金が一杯16文であったことによると言うもの。 $2 \times 8 = 16$ 文という洒落だと言うのである。もう1つは小麦粉2、そば粉8の割合で作ったからだというもの、実際にその割合で作られているとしても、どちらが粋かと言えば答えるまでもあるまい。

証券市場の中心地兜町は、もう江戸時代の面影は見られないがその周辺には、八丁堀、人形町、水天宮、浜町などの町名には江戸時代が残っている。その江戸情緒豊かな風情は町並み雰囲気があちこちに滲み出ている、甘酒横丁という通りもあり粋な老舗もあり庶民を楽しませてくれている街でもある。時々、和服の似合う女性と出会い、肩を寄せ歩きたい気分やムードに駆られることもあり江戸情緒風情にひたることもある。

人形町から少々足をのばしてみると古き良き時代大川と呼ばれた隅田川に出る小説の舞台にも登場する浜町河岸や高級料亭のあった浜町界限はその面影すら残っておらず、高層マンションとオフィスビルの林立ですっかり様相は一変したのである。

「にっぱち」は本当に商売が閑散となるのか、小売業や外食産業等は2月に決算を締める所が多い。2月の景気、相場は「江戸っ子気質」にあやかって、上昇して欲しいものである。

しかしながら現小泉政権下での政策を精査してみると、行財政改革、厚生年金改正、郵政民営化、三位一体改革、権限の地方への委譲に伴う地方分権化など、どれをとりましても全て丸投げで、国民への説明は不十分であるし、国民が納得していない現在、政策遂行は余りにも強引すぎるのではないかと思うし、バブル崩壊以降の後遺症もあり資産デフレの中の処方箋は、経済運営を最優先課題として景気回復に全力であたり、上手に舵をとり景気上昇を現実にしてもらいたいものである。

それはともかくとして財政状況をみてみますと、国債発行残高も538兆円となり、地方債を含めると712兆円と言われているが財政赤字の硬直化をきたしているのは事実であり、財政赤字の硬直化を修正するには相当な年数を要するしそれには大增税かインフレしかない。

増税は財務省の言う通り、将来消費税は段階的にアップして15%から20%にしないとプライマリーバランスは黒字化しない。

もう既に高齢化社会に入っているわけで、前に述べた通り庶民の生活はますます苦しくなるばかりで消費税アップとなれば生活は相当な打撃を受け庶民は犠牲を余儀なくされるのは目に見えている。ここに至っては庶民はあらゆる情報に耳を傾けそのことを念頭に入れしっかりした考えのもと、身を引き締めて人生を歩んでいくべきである。

終わりにあたり、政府は経済運営を上手く遂行実践し景気はおどり場状態にいる。年末までには景気は回復するとは言わないで現在の経済状況や財政状況では経済運営の軌道修正するには甚だ困難であろうが、いち早く景気回復を難陸させ上昇気流に乗せ景気を本調子にもっていくことに専念して貰いたい。好景気を示現できれば庶民の負担増は極力抑制でき、若者の将来も明るい見通しも見えてくるし、老後の生活の安定も確保でき、バラ色の人生を描くことができるでしょうし、国民総生産の70%を占める消費ものび、拡大再生産や、税の自然増にも影響を与え財政の改善につながることである。このことはとりもなおさず国民の要望である景気回復に焦点を絞り庶民の生活を安定させ未来像を描けるよう切に願望するものである。

さて、二八そばの情緒は戻って来るのであろうか？

邦楽尺八と私

昭和30年卒 渋井 恒夫

20代の頃、邦楽尺八楽器の魅力に惹かれ40数年修練しています。素朴な構造が難しく首振り3年とか申しますが音が出にくく途中で断念することがあります。

継続することで良い奏法はないかとあらゆるジャンルに挑戦することにしました。

地域の方々との親睦で毎年市民ホールで邦楽演奏会を開催して居ります（箏、尺八、三絃）。又プロの尺八奏者井藤麗山先生に師事（竹号、渋井麗恒山）、毎月2回稽古に励み、古曲、新曲、現代曲、民謡にと挑戦しています。

最近邦楽が小・中学校での音楽教育の一環として取り上げられるなどその魅力や伝統芸能を継承しようという動きが高まっています。中でも尺八は伝統の粋をはるかに超えジャズ・現代音楽ワールドミュージックなどあらゆるジャンルで活躍しています。尺八は管の長さが1尺8寸「約55cm」であったためその名前がつけられました。

中国の唐の時代に生まれたこの楽器は奈良時代に日本へ伝わり雅楽（宮廷音楽）の中に用いられるようになりました。16世紀の初めになると禅宗の一派普化宗の僧侶（虚無僧）が読経や座禅のかわりに尺八を吹くようになり1871年の「普化宗廃止令」まで引き継がれていました。尺八が一般に広く活用されるようになったのは明治時代になってからのことです。尺八は節と節の間が広い真竹を根元から使っています。リードが

ない上表4孔裏1孔あるだけの非常に素朴な構造ではありますがその音色は奥深くさまざまな音階音量（音の3要素、リズム、メロディー、ハーモニー）リズムなどに対応できます。これはあごを突き出したりひいたりして吹く吹き方が指孔の開閉へ調整また吹き込む息の強弱などによるものです。ひと吹き聞けば演奏者がわかるといわれるほど演奏の個性や力量が発揮される楽器でもあります。

子規と私とベースボール

関西外国語大学教授 内田 信也
(30年卒業)

「無数の遊びあれど（略）愉快とよぼしむるものただ一つあり、ベースボールなり」
(正岡子規 〈筆まかせ〉から)

明治文学界の泰斗・正岡子規はまた、日本に野球という競技が輸入された草創期、自らがプレーをし、野球用語の日本語訳などをはじめ、独自の境地を開いた俳句、短歌などを通じて野球の普及に努め、我が国の野球発展の基礎固めをしたパイオニアであります。

野球好きの子規は

久方の アメリカ人の はじめにし ベースボールは 見れど飽かぬかも
若人の すなる遊びは さわにあれど ベースボールに 如くものはあらじ
九つの人 九つのあらそいに ベースボールの 今日も暮れけり

このような短歌を詠むほど、野球に魅せられていたのです。

正岡子規は慶応3年、四国は伊予の国松山に生まれ、明治16年松山中学を退学、17歳で上京、翌17年東京大学予備門（後の第一高等学校）に合格、同級生には夏目漱石、山田美妙、南方熊楠らがいました。子規はこの学校で、ベースボールという遊びに出会ったのです。そして、東京で学んだベースボールを郷里松山で、後の門人、高浜虚子や河東碧梧桐に教えていたのです。明治31年、「歌よみに与える書」を発表して、万葉集の伝統に立って「写生」の態度を主張しました。翌32年、「根岸短歌会」を設立し、伊藤左千夫、長塚節らと和歌革新運動を展開した文学者であります。

「ベースボール」は明治5年（1872年）、東京大学の前身である開成学校の外国人教師H. ウイルソンによって日本に伝えられたとされています。子規自身についていえば、さまざまな文献によって、明治18年（1885年）にはすでにベースボールをプレーしていたのであります。子規がスポーツの中でもっとも愛好したのが、ベースボール=野球 だったのです。子規は当時では珍しい独自の野球スコアを考案し、記録として残しています。文献によれば、日本最古の野球スコアとされているものです。「打者」「走者」「四球」「直球」など、今に伝わる野球用語も子規の考案とされています。明治28年（1895年）の一高野球部史で中馬庚が初めてベースボールを「野球」と訳しましたが、「本名・常規」「幼名・処之助」といった子規が、通称を「升」と名乗ったことから雅号として「能球」「野球」の当て字を使い、一高で子規より後輩である中馬庚より早い時期に「野球」の訳語二文字を使っていたのです。

郷里の松山に「ベースボール」を伝えたのは子規であると言われています。明治22年（1889年）、子規は松山中学校の生徒であった河東碧梧桐に、翌年は高浜虚子に野球を教えています。子規は野球に限りない情熱をそそぎ郷里松山で野球を啓蒙し、野球王国松山の礎を作った一人であります。その後、四国の中等野球は急速に発展し、そのレベルは高く、全国大会では常に上位を占めるようになったのです。昭和になり戦前戦後を通して常に高いレベルを維持し、中学・高校野球をリードしてきました。

私は昭和11年の生まれです。終戦の時は小学校3年生、あばら家はあるものの、食べるもの、着るもの、遊ぶ道具、勉強する本までもがなかった時代でした。その終戦の翌年、昭和21年に我が邑楽郡高島村小学校にハイカラな英語の教師が着任したのです。その先生から、あの子規の歌にある「若人のすなる遊びはさにはあれどベースボールに如くものはあらじ」とある「野球」という遊びを教えて頂いたのです。

その後、邑楽郡高島村中学校で野球部に入部、郡大会で無名の中学校の投手として出場し、準優勝したのです。優勝は小泉中学校だったと思います。その後、大川中学校、中野中学校が強くなってきたのです。戦後、邑楽地区で野球が急速に復活したのは、小泉・太田（飛行場）の進駐軍の存在があったからだと思われます。米軍のキャンプ地小泉・太田で行われた野球の練習や試合を見たり、キャンプで働く日本人が野球道具を調達して町村に持ち込んだことも大きく影響したのではないかと思います。

無名の中学校から館林高等学校に入学、直ちに野球部に入部、その時の3年生エースは中野中学校出身の川島投手で、卒業後は高崎鉄道管理局（ノンプロ）で活躍した先輩でした。当時、ノンプロに就職したのは創部以来のことだといって、新聞各紙に大きく掲載されました。その川島投手が卒業し、2年生にエースが不在だったので、無名中学

校から入部した私は、当時の近藤監督から、コントロールはないが抜群のスピードをだす1年生の投手がいると認められたのです。その結果、1年生の秋から投手として出場できたことは私にとってラッキーなことであったと思います。当時、群馬県は稲川監督が率いる桐生高校の全盛期だったのです。その桐生高校を1年生投手の私が3点に抑えたことが高く評価され、その後の私の部活動に大変良い影響を与えたのであります。その時の捕手は福島先輩でした。この時代の県下の著名な対戦球児には桐生高校の毒島（元東映フライヤーズ）や今泉（ノンプロ）そして、前橋高校の中（元中日ドラゴンズ）桐生工業高校の岡（ノンプロ）、太田高校の佐野、横山（ノンプロ）などプロやノンプロに行く名選手が多くプレーしていたのです。球場は桐生新川球場、高崎城南球場、前橋敷島球場、伊勢崎華蔵寺球場、館林分福球場、三の丸球場など、どれもこれも青春時代のエネルギーを発散した思い出多い球場でした。

館林高校時代最も印象に残った試合は、2年次の秋季大会準々決勝、対前橋高校戦でした。試合は延長12回、2対1で惜敗しましたが、その時すばらしい球友を得ることができたのです。試合前のウォーミングアップの時、中投手と並んで投球練習をしていた会話の中で、彼は2年の時にプロ野球に行ってプレーしたいという意志をはっきり抱いていたことに驚かされたのです。私は3年になり、門傳校長、金子善平、贄田先生（何れも故人）に呼び出され、二つの大学野球部から勧誘の話があるがどうかと言われ、私は将来、プロ野球に就職するか教師になりたいという希望を抱いておりましたので、即大学進学を決めたのです。大学の野球部では1年目からベンチに入り、4年間神宮球場で大学野球を楽しむことができ、我が人生において大変有意義な時間でありました。

私の大学時代の六大学は立教大学全盛期で、長嶋（元巨人）や杉浦（元南海）が活躍し、東都大学では日本大学が一世を風靡していた時代でした。正岡子規が東京で学んだ野球を四国松山で俳句仲間に教えたように、私も大学の野球を郷里邑楽町に持ち帰り、お盆に行く野球大会の練習で後輩に技術指導をしたり、私自身試合に出場したりして、町内野球のレベルアップに少しでも貢献したいと、情熱を注いでいた青春時代でもあったのです。何年か後に、邑楽町から足利工業高校、桐生高校、前橋工業高校に進学して甲子園出場を果たした球児がいることを伺い、大変嬉しく思いました。

大学卒業後は、金田一京助先生、今泉忠義先生のご好意で国学院に奉職することになり、高校で教科を担当しながら野球部の監督・部長を40年間勤め、多くの球児に指導出来たことは大変幸せなことであります。現在は大阪まで新幹線で通勤し、関西外国語大学で週3日間の講義を楽しみながら野球部にも助言をしています。今年は広島カープにドラフトで指名された森跳二投手が入団し、今後の活躍が期待されています。

教え子はすでに50歳を越えている者もありますが、それぞれの結婚式などに招待して頂いたとき、「教師になって本当によかったなあ」という思いでいっぱいになります。東京都大会では甲子園出場を目の前にして、早稲田実業高校（元ヤクルトスワローズ荒木投手）に惜敗し、夢を絶たれた時の思い出は、生徒一人ひとりにとっても青春の良い思い出になったのではないかと思う昨今であります。

終戦後の小学校のころに初めてベースボールという遊びを知り、高校・大学時代には多くの球友に恵まれ、全国に親友が出来たこと、そして、多くの教え子が社会で貢献していることは、我が人生の宝であると同時に生き甲斐にもなっております。

館林高校時代の二年次メンバーは、岡住、長谷川、吉永、福島、内田、小池、大塚、深野、川島、小久保、大谷の各選手だったと思います。三年次は、戸ヶ崎、浦野、大塚、大谷、菅田、吉永、川島、小池、深野、内田、市原、岩下、佐藤、篠原の各選手で、監督は近藤先輩でした。館林高校の野球部卒業生も、群馬県下で現在指導者として活躍しております。浦野氏は高校野球の審判部長として、戸ヶ崎氏は関東学園高校の監督であり、金子氏は太田商業高校の監督として甲子園に出場しております。また、明治大学のコーチを経て、伊勢崎商業高校野球部部長の斉藤氏など優秀な指導者が、若い球児を育てていることはすばらしいことでもあります。

また、海外では野茂選手を筆頭に、長谷川、大家、イチロー、松井、田口選手など多くの日本人がメジャーという世界の舞台で活躍しています。今年は国学院久我山高校から青山学院大学そしてダイエーで活躍した井口選手もメジャーでプレーするということが、私にとっては、メジャーがより近くなったような気がしております。私の世代にはこのような時代が来るとは夢のようであります。体力的にも、技術的にも、私の子供の時よりは、格段に向上したからこそ、今のように、日本がメジャーリーグで活躍できるようになったのだと思います。それにしても、ある程度、将来を約束されながら日本のプロ野球を離れ、単身アメリカへ渡り、様々な試練を乗り越えて、日米通算200勝も達成し、今の日本人の活躍の道を切り開いた野茂選手のパイオニアスピリットには、本当に敬意を表したいと思います。

日本全体に閉塞感が漂っている今、メジャーリーグで世界の選手たちの中で、活躍している日本人選手ほど、私たちに勇気と希望を与えてくれるものはありません。あの明治時代の文豪、正岡子規もさぞびっくりしていることと思います。野球に限らず、いろいろな分野で世界に挑戦する若い人たちがどんどん出てきて欲しいと思います。そして、日本はもとより、世界のためにますます貢献することを期待しております。

館林東毛地区の地域興しに

ニューイヤー駅伝を誘致したい

昭和40年卒 横山 英和

団塊の世代である私は、まもなく定年を迎える年代になり郷土が恋しくなってきた。私は、邑楽町狸塚（旧長柄村）の出身で菩提寺は高源寺（狸塚）であり、小学校は、曾祖父（横山喜惣次）が初代校長を勤めた長柄小学校である。小中高と多感な少年期を過ごした郷土は思い出が多く懐かしい。

現在は、埼玉県川口市に居住しているが篠塚に留守宅があるため快晴である休日には片道2時間弱のドライブが楽しみである。特に春から夏には庭園の管理が忙しくなり帰郷の回数が多くなる。また、ここ数年は留守宅で正月を過ごすことにしている。定年後は、のんびりと郷土で暮らしたいと思うが家内の賛成が得られるか不安である。そのためにも郷土の発展は欠かせない。

ところで郷土は昔と比べると県道が国道になり国道354号線のバイパスが開通し沿道にはファミリーレストランやコンビニ等が多く開店しているが、首都圏に比較するとまだまだ田舎である。その原因は用途地域の多くが調整区域であることが発展を阻害している感は否めない。

群馬県東毛地区に位置する邑楽町は小泉と館林に隣接しているが地域全体が発展に乏しい。この館林東毛地区の活性化に毎年お正月に全国放映される日本実業団ニューイヤー駅伝をこの地区に誘致したいと思うのは私だけだろうか。

今や駅伝は、全国民に人気があるスポーツで冬期にはテレビ放送が多い。特に正月元旦には日本実業団のニューイヤー駅伝、正月2日、3日には箱根駅伝をテレビ観戦しながら正月を過ごす家庭が増えている。このため現在、前橋県庁前をスタートし伊勢崎・太田・桐生を通過して前橋に戻るニューイヤー駅伝を、国道354号線で小泉・邑楽・館林を經由し国道122号線で邑楽・太田にリターンするコースにすれば、群馬県東毛地区の小泉・邑楽・館林の地域興しに活用できる絶好のチャンスとなるはずである。是非このニューイヤー駅伝を誘致したいが方法が見つからない。もし、駅伝の全長や区間に限度があるならばスタート地点やゴール地点の変更などで対処方法は色々あると思いは、是非、小泉・邑楽・館林のみなさんの応援を期待したい。我々の郷土が全国にテレビ放

映されることで全国民や産業界に認知され、館林東毛地区へ企業誘致し易くなって地域発展になると確信しているのである。

太郎冠者

昭和25年卒 宮崎 浩

すらすらと読む春風や文庫本

浮遊せる森を見てをり西行忌

花菜みち読経の列の途切れがち

海の黙わが黙春の闌けにけり

菜種梅雨昇りし月に妻のこえ

三木助の芝浜を聞く春の夢

向日葵の種まく黄いろまっ黄色

はるみ節太郎冠者とは椿の名

徳利は一合飯蛸一尾あり

曖昧が一番よしと花見酒

ゴルフ会報告（その1）

館高東京OB会（20th）の報告及び次回等予告

ゴルフ同好会事務局

中村茂八郎

TEL 03-3248-2501

FAX 03-3248-2641

1. 20回記念大会報告

平成16年秋の大会は20回を記念する大会として、平成16年11月10日（水）に第1回大会の会場であった東京ゴルフ倶楽部を訪ねて行われました。

当日は、誠に穏やかな好天に恵まれ、邑楽町支部からの5名と共に、総勢20名の参加を得て開催されました。スコアは別表のとおりです。

又、当日は20回記念副賞として、大塚荘治画伯からバラの油絵2点が寄贈され、優勝者小林啓八さんとBB賞山崎浩志さんの何れも28年卒邑楽支部からの常連の2人に贈呈されました。

2. 次回及び次々回予告

イ、次回（21回）は、恒例により本校同窓会ゴルフ大会に合流しました。

成績は別表のとおりです。

○期日 平成17年5月11日（木）

○場所 板倉ゴルフ場

ロ、次々回（22回）は、17年秋になります。期日が決まっています。

○期日 平成17年11月16日（水）（但し、変更もあり得る）

○場所その他未定です。追ってお知らせします。

3. 第20回大会会計報告（本20回報告事務費は次回に計上します）

収 入	支 出
○前回以後の繰越金（不足金）△6,155	○19回大会報告費（理事会案内に記載）
○当日会費（6,000×20名）120,000	0
○中村茂八郎寄付（会費分）6,000	○20回大会通知送付（24×50）1,200
	〃 組合変更通知（20×50）1,000
	○賞品代 70,000
	○パーティ費（21名）54,200
小 計 119,845	小 計 126,400

差引繰越赤字 △6,555(円)

註 事務局中村は風邪のためプレーをせず参加しましたので、パーティは21名でした。

20回大会順位表

16. 11. 10 於 東京ゴルフ倶楽部

計算方法：新ペリア

隠しホール：out-2, 3, 6, 7, 8, 9 in-11, 13, 14, 16, 17, 18

	順位	氏名	out	in	out	グロス	ハンディ	ネット
優勝	1	小林 啓八 (邑)	49	49		98	26.4	71.6
準優勝	2	中村 貞夫 (邑)		42	40	82(BG)	9.6	72.4
3等勝	3	岩崎 充利	48	51		99	25.2	73.8
4等勝	4	曾根 利夫 (邑)		52	39	91	16.8	74.2
5等勝	5	鈴木 昇		51	49	100	25.2	74.8
	6	宇治川 譲	53	50		103	27.6	75.4
	7	小島 勝友		53	55	108	32.4	75.6
	8	浜田 邦夫	49	52		101	25.2	75.8
	9	車崎 光知		48	51	99	22.8	76.2
10等勝	10	岡戸 幸夫		45	53	98	21.6	76.4
	11	渋谷 恒夫	49	48		97	20.4	76.6
	12	荒井 昭彦		52	51	103	25.2	77.8
	13	川俣 和夫		59	49	108	30	78
	14	荒川 磯雄	53	55		108	30	78
15等勝	15	西田 一俊		49	55	104	25.2	78.8
	16	新里 武男	54	58		112	32.4	79.6
	17	曾根 吉道	59	57		116	36	80
	18	谷田部和之		52	58	110	28.8	81.2
BB賞	19	山崎 浩志 (邑)		57	54	111	27.6	83.4
	20	篠原 稔		50	-	N.R.	-	-

前高・高高・館高交流ゴルフ報告

事務局 中村茂八郎

千葉カントリークラブ（川間コース）

M T T 会成績表

2004年12月14日(火)

新ペリア方式

順位	競技者名	南コース		西コース		GROSS	HDCP	NET
優勝	荒井 昭	40	40	80	7.2	72.8		
準優勝	中村堅治郎（前橋）	45	46	91	18.0	73.0		
3位	野村 敦（"）	51	45	96	20.4	75.6		
4位	御手洗正博（"）	42	52	94	18.0	76.0		
5位	児玉 香織（ゲスト）	54	49	103	25.2	77.8		
6位	中村茂八郎	45	44	89	10.8	78.2		
7位	中嶋 裕子（ゲスト）	50	59	109	30.0	79.0		
8位	岩佐 直正（前橋）	54	53	107	27.6	79.4		
9位	鈴木 武子（ゲスト）	48	53	101	21.6	79.4		
10位	大隈 清道	57	55	112	31.2	80.8		
11位	五十嵐久泰（高崎）	59	58	117	36.0	81.0		
12位	鈴木 昇	51	52	103	21.6	81.4		
13位	神田 創造（高崎）	51	50	101	19.2	81.8		
14位	鈴木 敏男	57	57	114	30.0	84.0		
15位	諸田 悦子（ゲスト）	57	57	114	30.0	84.0		

前橋高校・高崎高校両校の東京同窓会の相互交流の一環として、準備会が開かれました。仮に名前をMTTとして今後の出発点としました。平成16年12月14日千葉CCに前橋3名、高崎2名、館林5名に鈴木会長夫人らゲストを迎えて楽しく行われました。今後の交流のため有益な協議も行われました。

尚、平成17年7月18日（海の日）に前橋高校のゴルフ会が赤城で開かれる際、館高OB会からも何名かゲスト参加の予定です。



17. 7. 18 前高・高定期戦にゲストとして中村茂八郎と高沢俊夫の2人が参加しました。

◎ 7月18日海の日は、梅雨明け宣言のあった暑い日でしたが、会場の赤城国際CCは涼風の吹く快晴なゴルフ日和でした。標高800mにしては少し暑いと思いましたが、下界の35℃とは別格の涼しさでした。

◎ コンペは、両校から30名宛40代から70代の会員が出席し、上位10名のグロス対抗戦と新ペリアによる全員対象の個人戦でした。（老若バランス良く出席していました。）

◎ 参加者は大変意欲的で、両校の熱意は大変なものでした。そして、大変愉快的集会でもありました。

◎ 来年も海の日（7月第3日曜日17日）に行うことが決まっていますので、館林からも対抗戦は無理でも何組か出席出来るよう計りたいと思います。本校同窓会と相談し、東毛の意気を示したいと思います。是非参加して下さい。

—中村記—

ゴルフ会報告（その3）

本校同窓会第5回懇親ゴルフ大会

（東京同窓会G21th）

17.5.11 於 板倉GC

東京OBG事務局 中村茂八郎

● 標記大会は予定どおり、5月11日に板倉ゴルフコースを訪ねて行いました（総勢

93名)。東京OB会からは、登録会員28名(別表●印23名と*印5名)の参加があり、殊に東京OB会の荒井昭さんがBGの優勝でした。

スコアは別表のとおりです。

来年の第6回大会は平成18年5月11日(木)と決定されました。日程を記録して下さい。

- 東京OB会22回大会は、来たる11月16日(水)の予定ですが、場所も未定です。日時も変る可能性があります。総会の前に詳細ご案内をいたします。

第5回館高同窓会懇親コンペ成績表

隠しホール②③⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑬⑭⑮

平成17年5月11日(水)

板倉ゴルフ場

順位	プレーヤーご芳名	OUT	IN	GRS	HC	NET	順位	プレーヤーご芳名	OUT	IN	GRS	HC	NET
1	荒井 昭 ●	36	40	76	4.8	71.2	2 0	中村茂八郎 ●	43	41	84	9.6	74.4
2	松崎 滋夫 ●	45	46	91	19.2	71.8	2 1	岩松 清市 ●	36	42	78	3.6	74.4
3	中村 貞夫 *	38	40	78	6	72	2 2	熊井佳寿裕 ●	40	44	84	9.6	74.4
4	勅使河原幸一 ●	51	57	108	36	72	2 3	大野 喜平 *	49	40	89	14.4	74.6
5	小久保 清 ●	38	40	78	6	72	2 4	大隅 允雄 ●	56	51	107	32.4	74.6
6	小林 啓八 *	48	43	91	18	73	2 5	田部井 清 ●	46	48	94	19.2	74.8
7	橋本 和雄 ●	49	47	96	22.8	73.2	2 6	宇治川 謙 ●	47	53	100	25.2	74.8
8	恩田 重弘 ●	52	44	96	22.8	73.2	2 7	渡辺 隆司 ●	45	43	88	13.2	74.8
9	島田 弘治 ●	43	41	84	10.8	73.2	2 8	飯塚 光幸 ●	47	47	94	19.2	74.8
10	福田 房夫 ●	48	53	101	27.6	73.4	2 9	吉田 善市 ●	45	41	86	10.8	75.2
11	相沢 繁光 ●	41	41	82	8.4	73.6	3 0	山口 謹司 ●	45	47	92	16.8	75.2
12	谷田部和之 ●	43	45	88	14.4	73.6	3 1	小林 征男 ●	46	58	104	28.8	75.2
13	黒須 義一 ●	48	45	93	19.2	73.8	3 2	須永 理夫 ●	43	49	92	16.8	75.2
14	山田 申 ●	45	42	87	13.2	73.8	3 3	篠原 稔 ●	42	43	85	9.6	75.4
15	鈴木 攻 ●	52	47	99	25.2	73.8	3 4	小幡洋次郎(上武) ●	38	41	79	3.6	75.4
16	小林 錦司 ●	39	41	80	6	74	3 5	車崎 光知 ●	43	47	90	14.4	75.6
17	峯岸 鉦 ●	46	45	91	16.8	74.2	3 6	大谷 昇 ●	45	45	90	14.4	75.6
18	金子代次郎 ●	60	49	109	34.8	74.2	3 7	鈴木 三男 ●	47	49	96	20.4	75.6
19	浅沼 重夫 ●	49	42	91	16.8	74.2	3 8	大木 幸夫 ●	47	49	96	20.4	75.6

順位	プレーヤーご芳名	OUT	IN	GRS	HC	NET	順位	プレーヤーご芳名	OUT	IN	GRS	HC	NET
3 9	亀井 仲治	42	47	89	13.2	75.8	6 7	大山 稔 ●	46	54	100	21.6	78.4
4 0	橋本 貞夫	53	53	106	30	76	6 8	猿橋 博	52	47	99	20.4	78.6
4 1	小林 幹夫	55	51	106	30	76	6 9	野口 三男	43	44	87	8.4	78.6
4 2	河内 初光	37	39	76	0	76	7 0	葭葉 昌司 ●	48	56	104	25.2	78.8
4 3	岡戸 幸夫 ●	46	47	93	16.8	76.2	7 1	曾根 利夫 *	52	46	98	19.2	78.8
4 4	橋本 明夫	44	43	87	10.8	76.2	7 2	小倉 五朗	57	58	115	36	79
4 5	渋井 恒夫 ●	47	45	92	15.6	76.4	7 3	鑄田 明	48	43	91	12	79
4 6	小川 正昭	46	46	92	15.6	76.4	7 4	滝沢 信夫	55	52	107	27.6	79.4
4 7	小島 勝友	50	53	103	26.4	76.6	7 5	山川 博	52	48	100	20.4	79.6
4 8	清水 廣	45	40	85	8.4	76.6	7 6	山崎 浩志 *	51	48	99	19.2	79.8
4 9	富田 好弘 ●	48	42	90	13.2	76.8	7 7	島田 敬三	45	48	93	13.2	79.8
5 0	小林 新内	50	52	102	25.2	76.8	7 8	茂木 新作	51	54	105	25.2	79.8
5 1	内田 矩実	55	47	102	25.2	76.8	7 9	目黒倉太郎	49	55	104	24	80
5 2	山岸 勝美	50	51	101	24	77	8 0	新井 卯平	47	45	92	12	80
5 3	筑比地 旭 ●	54	52	106	28.8	77.2	8 1	大塚 幸雄	52	50	102	21.6	80.4
5 4	長沢 正明	49	45	94	16.8	77.2	8 2	飯島 清	46	49	95	14.4	80.6
5 5	筑比地 繁 ●	43	50	93	15.6	77.4	8 3	小林 圭二	58	54	112	31.2	80.8
5 6	小島 享	48	56	104	26.4	77.6	8 4	浜田 邦夫 ●	54	52	106	25.2	80.8
5 7	松本 光夫	49	49	98	20.4	77.6	8 5	中村 邦雄	59	57	116	34.8	81.2
5 8	鈴木 昇 ●	43	49	92	14.4	77.6	8 6	岡村 昌二 ●	51	48	99	16.8	82.2
5 9	鯉沼 正男	50	48	98	20.4	77.6	8 7	大川 秀夫	44	51	95	12	83
6 0	中村三千夫	54	49	103	25.2	77.8	8 8	岩崎 允利 ●	52	55	107	22.8	84.2
6 1	赤坂 宏	49	54	103	25.2	77.8	8 9	遠藤 文吉	57	60	117	32.4	84.6
6 2	斉藤又一郎 ●	53	49	102	24	78	9 0	大隅 清道 ●	65	62	127	36	91
6 3	進藤 練一	55	47	102	24	78	9 1	秋庭 博	69	59	128	36	92
6 4	尾島 好夫 ●	50	57	107	28.8	78.2	9 2	小澤 泰治	68	60	128	36	92
6 5	塩田 豊二 ●	50	50	100	21.6	78.4	9 3	曾根 雅彦	66	66	132	36	96
6 6	川村 健司	48	52	100	21.6	78.4							

七陽商事株式会社 (電子機器貿易)
(ケンジントン・通信機器国内卸総代理)

取締役会長 鈴木敏男 (23回卒)

☎103-0007 中央区日本橋浜町2-55-7 ナナヨービル
TEL. 81-3-3663-7740(6 LINES)
FAX. 81-3-3669-2367
E-mail: t-suzuki@nanayojapan.co.jp
http://www.nanayojapan.co.jp

相澤建志法律事務所

辯護士 相澤建志

東京都中央区銀座7丁目3番13号
ニューギンザビル10階
電話 03 (3574) 0880(代)
FAX 03 (3572) 0028

財団法人 畜産環境整備機構

理事長 岩崎充利
(29年卒)

東京都港区虎ノ門三丁目19番13号
〒105-0001 スピリットビル4階
電話 03-3459-6300(代表)
FAX 03-3459-6315

株式会社 リアルエスピースタジオ

代表取締役 宇治川 讓
(29年卒)

スタジオ
〒112-0012 文京区大塚5-40-18
友成フォーサイトビル4F
TEL 03-5319-8210
FAX 03-5940-6130
〒178-0061 練馬区大泉学園町4-12-3
TEL 03-3922-5739

テクニカル・コーディネーター
建築家

大隈清道
(29年卒)

〒273-0022 船橋市海神町西
1-1193-1-1006
電話 0474-33-6790

日本郷土民謡協会理事・名誉教授
日本コロムビア・レコード専属

太田 琇声
(昭和40年卒 金子和司)

〒116-0011 荒川区西尾久3-18-18
TEL・FAX 03-3893-5129

カンダコーポレーション株式会社

相談役 荻野榮蔵
(23年卒)

〒101-0061 千代田区三崎町3-2-4
電話 03-3265-1841
FAX 03-3237-7385

高級中国料理
慶華大飯店

大小ご宴会承ります

東京都台東区浅草橋1-19-1

TEL 03-3861-3344(代)

FAX 03-3861-7525

住所 足立区千住曙町41-2-1404

氏名 藤野敬三

どんな病気の相談にも応じ、
救急SOSカードを発行します

赤坂関口クリニック

院長 関口守衛

元東京女子医大心研内科教授

館高昭和27年卒

TEL: 03-3584-1727, FAX: 03-3584-1750

〒107-0052 東京都港区赤坂7-5-56

ドイツ文化会館OAGハウス406

日本画

恩田進吾

(21年卒)

〒166-0015 杉並区成田東1-13-13

TEL 03-3317-2191

有限会社 昌平印刷

代表取締役 福田益也

(29年卒)

〒160-0004 新宿区四谷4-1-3

TEL 03-3341-2871

FAX 03-3359-7733

株式会社 サービス経済研究所

代表取締役 山岸正
(昭和36年卒)

東京都台東区上野公園18番8号

〒110-0007 グリーンパーク5階

TEL: 03(3822)8666

FAX: 03(3822)8687

E-mail: HHE01366@nifty serve.or.jp

URL: http://www.skk-data.co.jp/

よし ば
弁護士 葭葉昌司

(27年卒)

事務所 〒106-0031 東京都港区西麻布
3丁目21番20号
霞町コーポ709号室

電話 東京 3478-0877番(代)

FAX 東京 3478-0879番

自宅 〒270-0021 松戸市小金原5丁目
22番地の11号

電話 0473-42-0057番

有限会社 アーモンド洋菓子店

代表取締役 米田稔
(28年卒)

〒154-0004 世田谷区太子堂3丁目
14番1号

TEL 03-3412-5982

弁護士 中村茂八郎

(25年卒)

〒104-0061 東京都中央区銀座
5-14-16

銀座アビタシオン301~2

TEL 03-3248-2501(代)

FAX 03-3248-2641

平成17年4月5日理事会議事メモ

平成17年4月吉日

館高東京同窓会
会長 鈴木敏男

出席 理事33名、来賓3名（太田・千代田・板倉各支部長）

場所 上野精養軒

議事要旨

1. 8月26日（金）夏の理事会の企画は、納涼船（大型）を検討し、不可能の場合地上で行う。内容は正副会長一任。
2. 25周年記念行事は、実施に向けて準備委員会を発足させる（記念誌の発行等）。委員の人選は会長一任。
3. 役員改選については、本年が改選期であるが、25周年記念行事を実施することを前提に、現正副会長任期を1期延長して来期に改選とし、総会に提案する。
（選挙方法は従前どおり、選考委員会を設置する。委員の人選は会長一任の予定。）
4. 名簿の改訂は、25周年記念行事の一環として行うこととする。但し、個人情報 は 本会の目的使用以外には公開しない。
5. その他
 - イ. 本年5月11日本校同窓会主催のゴルフ会の報告
 - ロ. 前橋・高崎、館林3校OBの交流ゴルフ会の実施を検討中（8月中旬の予定）。
 - ハ. 会報原稿の集まりが悪いので、締切を5月10日とする。
 - ニ. 年間行事は予定どおり実施する。
（次の理事会は8月26日（金）。総会は10月15日（土）。）

以上

館林高校東京同窓会

平成17年度事業報告

(含16年度未報告分)

年 月 日	事 業 項 目	場 所 そ の 他
平成16年10月16日	東京同窓会総会開催 (会員47名、ゲスト4名、来賓12名出席)	上野精養軒
平成16年10月26日	事務局会議	中村事務所
平成16年10月28日	高崎高校東京同窓会交流	池袋メトロポリタン
平成16年11月10日	東京同窓会ゴルフ20回記念大会	東京ゴルフ倶楽部
平成16年12月10日	正副会長・事務局会議	鈴木会長事務所
平成16年12月14日	前橋・高崎・館林3校交流ゴルフ準備会	千葉CC(川間コース)
平成17年2月4日	正副会長・事務局会議	鈴木会長事務所
平成17年4月3日	渋川高女東京同窓会交流	市ヶ谷アルカディア
平成17年4月5日	東京同窓会理事会観桜会 (理事33名、ゲスト3名出席)	上野精養軒
平成17年4月15日	正副会長・事務局会議	鈴木会長事務所
平成17年5月11日	本校同窓会第5回ゴルフ大会 (東京21回合流23名参加)	板倉GC
平成17年5月12日	会報編集事務局会議	中村事務所
平成17年5月21日	本校邑楽支部総会交流	邑楽町福祉センター
平成17年6月7日	前橋高校東京同窓会交流	市ヶ谷アルカディア
平成17年6月25日	会報編集事務局会議	中村事務所
平成17年7月18日	前高・高高対抗ゴルフ大会 (ゲスト参加2名)	赤城国際CC
平成17年7月26日	正副会長・事務局会議 会報編集会議	鈴木会長事務所
平成17年8月26日	東京同窓会理事会(納涼会)	
平成17年9月2日	正副会長・事務局会議	鈴木会長事務所
平成17年9月2日	会報編集発送	〃
	会計監査	〃
平成17年10月15日	東京同窓会24回総会・講演会	上野精養軒